

[試験紹介]

本県に適した飼料用米の選定

本県で飼料用米の奨励品種として認定されている「夢あおば」は、「コシヒカリ」と収穫時期が重なることが課題となっています。そこで当センターでは、奨励品種選定調査において**主食用米と熟期が異なり、栽培性・収量性に優れた飼料用米品種の選定**試験を実施しています。

本年度は、農研機構中日本農業研究センター育成系統「北陸 193 号」及び「北陸 288 号」、同作物研究部門育成系統「オオナリ」、同西日本農業研究センター育成系統「みなちから」を供試しています。草丈や茎数、病害虫抵抗性、倒伏性等の特性調査及び収量調査を実施し、選抜を進めていきます。



写真 飼料用米の供試品種（6月24日撮影）
左から 北陸 193 号、北陸 288 号、オオナリ、みなちから、
夢あおば、あさひの夢

(水稻研究室)

[試験紹介]

「とちぎの星」の刈取適期や刈遅れによる品質等への影響の解明

「とちぎの星」は高温に強く、縞葉枯病抵抗性を有する良食味の品種です。一方で「コシヒカリ」よりも帯緑色籾率の低下が遅いため、刈取適期の判断に迷うことがあります。一般的な水稻栽培では、刈取適期から遅れると、胴割粒が増加し、品質が低下することから、当センターでは「とちぎの星」の出穂期からの積算気温と帯緑色籾率を調査し、刈取適期の検討を行っています。



写真 成熟期を迎えたとちぎの星

2023 年度の試験では、出穂後 44 日から 62 日に帯緑色籾率は達観で 15～0%に低下しましたが、刈遅れによる品質の低下はゆるやかであり、出穂後 62 日でも胴割粒や乳白米等の増加は抑えられる結果となりました。「とちぎの星」は刈取りが遅くなった場合でも品質が低下しにくい可能性が示唆されたため、本年度は「とちぎの星」と「コシヒカリ」の比較もしながら、刈取適期幅について検討していきます。

(水稻研究室)